

第3次浜松市教育総合計画の状況

資料2

政策	状況
政策1 自分らしさを大切にする子供を育てます	子供の将来の夢や自己肯定感に関する値が低下。 キャリア・パスポートの活用等、キャリア教育への取組に対する教員の意識が向上。
政策2 夢と希望を持ち続ける子供を育てます	自分が住んでいるまちや地域が好きな子供の割合は9割以上の高い値で推移。 地域の行事への参加や、難しいことにも失敗を恐れないで挑戦しようとする子供の割合が低下。
政策3 これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供を育てます	子供が決めたことを最後までやり遂げる割合は8割以上の高い値で推移。計画的に学習する子供の割合は低下。 児童生徒の情報モラルに対する意識やICT活用能力が向上。 朝食の摂取や規則正しい就寝起床等の生活習慣が確立した子供の割合が高い。 「体力」や「運動やスポーツが好きと回答した子供の割合」は低下。
政策4 一人一人の可能性を引き出し伸ばします	不登校児童生徒、障がいのある子供、外国人児童生徒といった支援を必要とする児童生徒への支援体制の充実が計画的に進捗。
政策5 園・学校や教職員の力を向上させます	子供が教員はよいところを認めてくれていると感じたり、保護者が気軽に教員に相談できたりするような良好な関係を築くことができている。
政策6 子供の生活や学びを支える教育環境づくりを進めます	学校に関わる支援員や補助員等の「人」や、学校施設等のデジタル環境、学校施設の基幹設備の更新等の「物」の配置や整備が進捗。
政策7 家庭や地域の力を生かした取組を推進します	子供のよい表れを認めたり、子供の話に耳を傾けたりする保護者の割合が高い値で推移。 地域と学校の関わりや地域の人材を活用した教育活動の実践に対して肯定的な回答が示されている。 コミュニティ・スクール設置校が増加（R5年度、140校）。

➡ キャリア教育を核とした人づくりの推進は着実に実施され、10項目の指標で目標値を達成するとともに、それ以外の4項目で数値が上昇。コロナ禍の影響と推察される数値の変動もあり、予測不能な将来においても、それに力強く対応できる力の育成が求められる。

本市の状況、保護者・市民の意識

本市の状況

	状 況
人口 (現状と推計)	平成17年の国勢調査以降、人口が減り続けており、令和5年5月1日現在、浜松市の総人口は780,601人（学齢児童生徒は60,317人）。今後、年少人口も減少し、全体に占める割合が約10%で推移すると予測（5年後の学齢児童は約53,000人と予測）。特に天竜区と西区で学齢児童生徒の減少が著しく、当該地域での小規模校化に拍車がかかる。
学齢児童生徒	学力は全国平均と同等、もしくは上回る数値を記録。体力は全国同様に低下傾向。いじめの認知件数は、大幅に増加。（R4年度、4,883件）不登校児童生徒数も大幅に増加。（R4年度、2,210人）外国籍の児童生徒数は、ここ数年、約1,800人が在籍。発達支援学級在籍児童生徒は毎年増加。放課後児童会に在籍している児童は7,000人を越え、ニーズが高まっている。
教職員	教職員構成は、50歳代の割合が最も高く、40歳代の割合が最も低い。教員採用試験受験者数は令和2年度採用から増加傾向。採用倍率は、小学校教員約3.3倍、中学校教員約4.6倍と一定の水準を維持。

➡ 学校の小規模化、児童生徒への生活・学習保障、教職員の資質向上と子供に向き合える時間の確保に向けた働き方改革などの課題に対して、持続可能な学校教育の在り方を模索し、効果的な支援を講じていく必要性。その際、ICTの活用やデータの利活用といったデジタル化の視点についても検討。

保護者・市民の意識

	意 識
保護者	「確かな学力の育成」や「夢と希望をもって自分らしく歩んでいくことができる子供を育むキャリア教育の充実」、「豊かな心の育成」等、子供自身の成長に直接かかわる事柄への関心が高い。
市民	子供の「生きる力」の育成に関する取組が重要 「学校の教育活動に協力している（してみたい）」と市民の約31.0%が回答。

➡ 第3次浜松市教育総合計画の理念も保護者に浸透し、認識を共有することができた。市民の参画意識についてコミュニティ・スクール等を活用し、さらに加速。